

第1回旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会 会議録

日 時 令和6年7月29日（月）午後6時～午後7時40分

場 所 旭川市役所総合庁舎 4階 教育委員会室

出席者 参加者 10名

青山氏, 浅野氏, 石塚氏, 大垣氏, 楠井氏, 佐々木氏, 千葉氏, 那須氏, 矢ノ目氏,
山中氏（50音順）

事務局 11名

野崎教育長, 坂本学校教育部長, 中瀬学校教育部次長, 末木学校教育部次長,
今適正配置担当課長, 板東学校施設課長, 山本学務課長, 山下教職員課長,
佐瀬学校保健課長, 道下教育政策課主査, 教育政策課 森田

傍聴者 なし

資料	資料1	旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会設置要綱
	資料2	「旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会」参加者名簿
	資料3	旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会の運営方法に関する取扱い（案）
	資料4	計画の改訂について
	資料5	旭川市の人口, 児童生徒数, 学校の状況
	資料6	各学校の児童生徒数
	資料7	適正配置の取組状況と検証
	資料8	旭川市立小・中学校適正配置計画の改訂スケジュール

第1回旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会 次第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 参加者の紹介
- 4 会議進行役の互選
- 5 議 題
 - （1）懇談会の運営等について
 - （2）旭川市立小・中学校適正配置計画の改訂について
 - （3）見直しのスケジュールについて
 - （4）その他
- 6 閉 会

会議録（要旨）

1 開 会

2 挨 拶

懇談会の開催に当たって、教育長から挨拶を行った。

3 参加者の紹介

事務局から各委員及び事務局職員の紹介を行った。

4 会議進行役の互選

互選により、進行役に北海道教育大学旭川校 山中氏を選任した。

5 議 題

（１）懇談会の運営等について

進行役 事務局	懇談会の運営等について、事務局からの説明をお願いする。 （資料１～３に基づき説明）
事務局	事務局としては、このような取扱いと考えており、この案について、お諮りいただきたい。
進行役	懇談会の運営について、案のとおりでよろしいか。 （一同同意）

（２）旭川市立小・中学校適正配置計画の改訂について

進行役 事務局	旭川市立小・中学校適正配置計画の改訂について、事務局から説明をお願いする。 （資料４～７に基づき説明）
進行役	資料に基づき事務局から、現行計画の概要、児童生徒数等の状況や、適正配置の取組状況、検証について説明があった。 ここからは、参加者の皆様から御質問、御意見等をいただきながら進めていく。まずは御質問等あるか。
参加者	第３期の統廃合対象校の啓北中学校は、六合中学校と学校規模もほぼ変わらないが、なぜ対象校となったのか教えていただきたい。
参加者 事務局	統廃合となった際、六合中学校の校舎は生徒数の受入可能なのか。 春光小学校は、通学区域内に居住する児童の約６割が六合中学校に進学し、約４割が啓北中学校に進学する。通学区域を見直すことにより、春光小学校の進学先中学校が六合中学校のみとなり、啓北中学校が小規模化するとして、啓北中学校が第３期で統廃合対象校となっている。計画策定時の推計では啓北中学校が令和１１年度には小規模校となる見込みだったことや、六合中学校で受け入れ可能であるとして統廃合対象になっているが、１５年と長期期間の計画であるため、現在の状況を踏まえた再検討は必要と考えている。
参加者 進行役	教室数では啓北中学校の方が多いので、空き教室といった点でも考える必要があると思う。 計画策定時から１０年が経過し、特別支援学級の増加等、学校施設の利用の仕方も変わってきていると想定されるので、再度現状を確認し、検討していくことが必要だと思う。ほかに御質問はあるか。
参加者 事務局	通学支援について説明があったが、どのような場合に受けられるのか教えていただきたい。 通学支援の方法としては、スクールバス、タクシー、乗り合いタクシー等があるが、バスを走らせる規模の人数がいなるときはスクールタクシーによる支援を行っている。また、統廃合に当たっては通学支援策の確保が必要であると考えているが、実際にどのような支援を行うかは、その時の状況により検討していく。
参加者 事務局	通学支援の費用は利用者が一部を負担するのか、全額市が負担するのか。 現在は全額市で負担しているが、どのような形で通学支援を行うかは、統廃合する際、個別に協議していく。

進行役 参加者	それぞれの状況に応じて支援策がなされるということであった。ほかに御質問等はあるか。 第2期の統廃合未了の学校について、放課後児童クラブの設置状況を教えていただきたい。
事務局	また、統廃合対象校になると、児童クラブの設置が難しくなるのか。 ある程度の利用見込みがないと児童クラブは設置できないと聞いている。統廃合対象校の中で児童クラブがある学校は、永山東小学校と正和小学校であり、そのほか、江丹別小学校と日章小学校などで、誰もが利用できる放課後子供教室を設置し、地域の方の協力を得て運営していると聞いている。
進行役	ほかに御質問はあるか。 (一同質問なし)
進行役	事務局から児童生徒数がピーク時の昭和57年に比べ、大きく減少していくという推計が示された。私自身が普通だった小学校では、1学年約200人、全校生徒は約1,200人という規模の学校であったが、教員になった平成8年の時点で、既に児童数がかかり減少したという印象であった。事務局の説明から、今後更に減少が加速し、厳しい状況が待ち受けていることは理解したところであるが、そういった状況を含め、適正配置の考え方についての御意見もいただきたい。
参加者	今回示された人口推計よりも、実際はそれ以上に人口減少が進む見込みであり、教育や保育についてコストの話をするのは難しいが、運営するに当たっては、必ず費用がかかってくることであり、統廃合を進めるには、コスト面でも整理していかなければならないと思う。
進行役 参加者	コスト面でも検討していく必要があるという御意見であった。 日章小学校には週2回の放課後子供教室しかないため、毎日児童クラブが運営されている知新小学校や新町小学校に指定校を変更して通う児童が一定数いると聞いている。日中働いている家庭が多く、日章小学校でも児童クラブが必要な状況になっている。また、保護者が複式学級のデメリットを問題として捉えていないと説明があったが、複式学級に通う保護者や知人の教員に聞いたところ、デメリットは感じていない。実際に自分の子どもが複式学級を経験したが、先生も工夫して授業しており、問題はない。
進行役	保護者のアンケート意見で、過小規模校を「きめ細かい望ましい規模」と考える意見が多く、複式学級はデメリットとして捉えられていないとのことであった。学校現場でも、個別最適な学びという点では、一人一人の状況に応じた指導は少人数学級では実現しやすい状況となる一方、協働的な学びの一体的な充実という点では、多様な考えを持った他者と関わることや学習活動の展開により、思考力、判断力、表現力等の育成が図られることを考えると、小規模校だから全てが良いということではなく、ある程度の規模により得られるメリットがあることも考えていかなければならないと思う。また、学習指導においては、過小規模のメリットもあるが、教員の配置についても併せて伝えていく必要があると考える。
参加者	過小規模の学校現場からの意見としては、子どもたちに必要なのは、自分自身で学ぶ力であり、人数が少ないからといって学習力が落ちるわけではないと考えているが、少人数の場合、グループの中で議論するなど対話の機会が少なく、人間関係も限定的なものになってしまうため、社会性を培うという面で心配な点もある。自分の勤務する学校は過小規模だが、今年度は大きな規模の学校と合同で行事する機会があり、児童生徒も過小規模校ではできない良い経験ができた。しかし、それは大きな規模の学校では、日常的に経験できることでもあると思う。学習面では、教員が一人一人をしっかり見ることができるので、良いところも多々あるが、デメリットもないわけではない。また、複式学級は、1人で2学年分の準備をする必要があるため、教員の負担は大きい。
進行役 参加者	学校現場の現状について、詳しく御説明をいただいた。そのほか御意見はあるか。 なぜ統廃合するのか、地域に対して丁寧な説明が必要。学校規模によりそれぞれのメリットがあると思うが、小規模の学校になると教員の負担が大きくなるのではと思う。
進行役	なぜ統廃合になるのか、背景も含め、整理して丁寧に説明していくことが大事という意見であった。先ほど事務局からも御説明いただいた内容は、子どものことを第一に考え、整理している印象を持った。そのほか発言されてない方、御意見を伺いたい。
参加者	学校規模の基準については、今後更に児童生徒数の減少が見込まれる中で、基準そのものを

	見直しても良いのではないかと思います。大規模校のように、今後該当する見込みがない基準は残しておく必要はないかと思います。
進行役	学校規模の基準について、何か根拠があるのか。
事務局	学校規模は、国で示されている基準の学校規模を参考に、市で区分している。
進行役	本市においては、大規模校は、小学校では令和6年度以降該当がなく、中学校でも令和元年度以降該当がないため、少子高齢化を鑑み、実情に合わせた基準に見直すべきという意見があった。そのほか、御意見はあるか。
参加者	自分は親としての意見を述べさせていただく。自分が育った環境では人数の少ない小さな学校で育ち、大勢と関わるという経験がなかったため、親になり旭川に住んだ際、大勢の子どもや保護者と関わる環境になかなか馴染めなかった経験があるが、子どもたちにとっては、大勢の中でコミュニケーションを学べる良い環境だと思った。統廃合で急に大きな学校に統合となることを心配するのも分かるが、学校規模が大きくなったことで子どもたちの将来にとって良い環境となるのではないかと思います。
進行役	保護者の立場から御意見をいただいた。ほかに御意見はあるか。
参加者	個別学校の課題について説明があったが、台場小学校は近隣に児童養護施設があり、児童養護施設に一定数の子どもたちが居住する一方、地域の子どもたちは減少する傾向にあるので、悩ましい課題であると感じた。
進行役	御意見いただいた台場小学校は、児童養護施設から通学している児童が半数おり、重要な役割のある学校だと思う。台場小学校以外にも個別の課題があり、今後それぞれの課題についてもしっかりと見ていく必要があると感じた。
	幅広い視点でたくさんの御意見をいただき、感謝申し上げます。

(3) 見直しのスケジュールについて

進行役	見直しのスケジュールについて、事務局からの説明をお願いします。
事務局	懇談会は3回を予定しており、本日皆様からいただいた御意見を参考に、事務局において適正配置計画改訂版の素案を作成し、9月頃に第2回の懇談会を開催する予定。そこでまた皆様から御意見を伺いたいと考えている。その後、計画改訂案についてのパブリックコメントを実施し、さらに、来年の1月から2月頃に第3回の懇談会を開催し、皆様の御意見をいただきながら、年度内に最終的な計画改訂案を策定し、令和7年度から新たな計画に基づいた取組を進めていきたいと考えている。次回の懇談会の日程については改めてお伺いする。
進行役	ただいま説明のあった策定スケジュールについて、御質問等はないか。 (質問等なし)

(4) その他

進行役	最後に、今回の懇談会について、何か御質問等はあるか。 (質問等なし)
-----	---------------------------------------

6 閉 会

進行役	以上で、第1回旭川市立小・中学校適正配置検討懇談会を閉会する。
-----	---------------------------------